

所 信 表 明

平成 30 年 5 月 16 日

市長就任後、初めての議会にあたり、所信を述べる機会をいただきましたことに感謝を申し上げます。

このたび、市民の皆さまからのご支持とご支援により、沼津市長に就任いたしました頼重秀一でございます。

歴史と伝統ある沼津市政を担う重責に、改めて身の引き締まる思いであります。

私はこれまで15年にわたり、市議会議員として徹底した現場主義のもと、市民の声をよく聴いて市政に反映させることを常に心掛け、沼津市の発展と市民生活の向上に努めてまいりました。

ここにお集まりの議員各位も、市民の代表、代弁者として、その志は同じであると思います。

市議会と行政は、地方自治を担う車の両輪として本市の未来を見据え、市民の諸問題の解決のためにそれぞれの立場で切磋琢磨し、緊張感を持って向き合いつつ、共に力を尽くしていくべき存在であります。

私自身、市民の皆さまの期待に応えるべく、全身全霊を捧げて市長の職務に邁進する覚悟でございますので、市政運営にあたり議員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、去る3月21日に逝去された故大沼明穂前市長におかれましては、市民との対話を重視しながら、こども医療費の無料化を実現させたほか、海を活かしたまちづくりなどに取り組まれ、様々な施策についてもこれから本格的に展開されようとする中で、残念ながら道半ばにして永眠されました。

故人の功績に深く敬意を表するとともに、市民の視点に立った市政運営と明るく元気なまちづくりへの思いを引き継ぎ、市勢の更なる発展につなげていきたいと考えております。

それでは、私のこれからの市政運営に対する考え方の一端を申し上げます。

我が国は本格的な少子高齢化、人口減少時代に突入し、定住人口、交流人口をめぐる都市間競争がますます熾烈になる中で、本市においても社会潮流の変化に対応しながら、市民ニーズを的確に捉えた自治体運営を進めることが求められています。

そのような中であって、本市は、豊かな自然と多彩な歴史・文化に加え、国際的な観光地として名高い富士、箱根、伊豆の中心に位置するとともに、大都市圏に近いという地理的優位性を有しているなど、都市間競争を勝ち抜くための高いポテンシャルを備えています。

しかしながら、近年ではまちづくりの停滞や人口流出などの様々な問題に直面し、そのポテンシャルを十分に活用することができず、県東部の中核都市として魅力にあふれ輝いていたまちの姿は、今や人々の思い出になりつつあります。

さらに、まちの活力低下は市民や企業のマインドにも影響を及ぼし、議員として市内を駆け回る中で、「沼津には期待できない」、「未来に希望を見出せない」などという悲観的な声の高まりを肌で感じるにつけ、沼津が人々から見放されてしまう、そのような危機感を抱いてまいりました。

沼津に広がる疲弊感の原因は何か。私は、まちづくりにおいて、決められたことが遅々として前に進められず、将来の方向性をはっきりと示せずにいることにあると捉えています。

とりわけ、沼津駅周辺総合整備事業の核をなす鉄道高架事業は、本市の発展に寄与する事業として大きな期待が寄せられ、多くの地権者や関係機関のご協力をいただいているが、構想から 30 年、事業着手から 10 年以上が経過してもなお、

異なる意見の対立により大きな進展がみられていません。

このような現状を打ち破るために、私は選挙期間中一貫して、「市民とともに、行動する沼津」の必要性和、「誇り高い、元気なまち沼津」の実現を訴えてまいりました。

今こそ、市民の心をひとつにまとめて停滞から行動へと舵を切り、明るい未来への展望を切り拓いてほしい。それがまさに、今回の選挙結果に示された市民の「民意」であり、私に課せられた使命でもあると認識しております。

こうした皆さまからの期待に応えるべく、市民とのコミュニケーションを重ねてまちづくりへの参画を促し、多様な意見に耳を傾けながら、市民と行政が丸となった本市の新たなまちづくりを進めていく所存であります。

私は、目指すまちづくりの実現に向けて、以下の3点を重点施策と位置付け、総合的に推進してまいります。

(活力あふれるまちづくり)

第一に「活力あふれるまちづくり」です。

本市が持続的に発展していくためには、まちづくりの基礎となる都市基盤整備や地域経済の活性化を図るための産業振興に取り組み、未来へ向けて更なる可能性を感じられる、活力あるまちをつくる必要があります。

鉄道高架事業につきましては、事業の必要性などについての説明も含め、丁寧に、かつ、誠意を持って地権者の皆さまとの用地交渉を進めながら、事業の早期完成に向け、新貨物ターミナル用地取得にかかる土地収用法に基づく調査を実施し、着実な事業の進捗を図ってまいります。

中心市街地のまちづくりにつきましては、昨年度開催され

た有識者会議などの成果を踏まえ、民間の意見や発想を取り入れつつ、新たなまちづくりの方向性を検討してまいります。

また、原・浮島などの市の西部地域につきましては、「道の駅」の整備や物流拠点化など、未来を拓く地域の発展について、市民の皆さまとともに検討してまいりたいと考えております。

さらに、新たな企業の誘致や、ものづくりをはじめとする中小企業への支援、地場産業である農業、水産業の振興などの各種施策を通じて、地域の経済力強化と雇用の創出・確保に努めてまいります。

（いきいき暮らせるまちづくり）

次に「いきいき暮らせるまちづくり」です。

まちの主役である「人」を大切にし、子どもからお年寄りまで、市民の誰もが明るくいきいきと暮らせるまちをつくることは、行政に求められる最も重要な役割であります。

福祉や教育、防災など、市民生活を支える施策にしっかりと取り組んでまいります。

なかでも、子育て・教育環境の充実を図ることは、人口減少対策の視点からも、若者世代の定住を促すために必要であると認識しております。

そのため、保育所及び放課後児童クラブにおける待機児童の解消に向けた取り組みの強化など、安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを推し進めるとともに、小中学校普通教室へのエアコン設置を積極的に進めるほか、洋式トイレの整備率の更なる向上に取り組むなど、子どもたちにとってより良い教育環境の拡充に努めてまいります。

また、高齢者や障害のある方への生活支援、心と体の健康づくりなど、生涯にわたって明るく元気に暮らせるまちづくりについても着実に推進してまいります。

さらに、市民が安全・安心で快適に過ごすことができるよう、市内各地域の特性に応じた地震津波対策や大規模災害への対応はもとより、公共施設マネジメントやインフラの耐震化・長寿命化などについても取り組んでまいります。

（魅力輝くまちづくり）

最後に「魅力輝くまちづくり」です。

本市がかつてのようになぎわいを取り戻すには、市民が沼津に愛着と誇りを持って暮らすことができ、市外の方からも「沼津に住みたい、行ってみたい」と感じてもらえる、魅力輝くまちをつくるのが大切です。

美しく豊かな海をはじめとする素晴らしい自然環境と、高尾山古墳や白隠禅師に代表されるそれらの風土に育まれた歴史・文化は、沼津の誇るべき地域資源であります。

これら沼津ならではの資源を活用するとともに、質の高い都市景観づくりや伊豆半島ジオパークをはじめとする近隣市町と連携した広域観光などに取り組み、市民はもちろん、市外の方にも本市の個性と魅力を感じていただけるようなまちづくりを進め、関係人口・交流人口の拡大に努めてまいります。

また、建設を進める新市民体育館や近年高まりを見せるサイクルツーリズムなど、沼津は「スポーツのまち」としての魅力も有しています。

本市を拠点に活躍するアスルクラロ沼津に対する支援の継続や、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた機運が高まる中で、事前合宿やスポーツイベントを誘致するなど、スポーツを活用したまちづくりにも取り組んでまいります。

以上、市政運営にあたりまして、私の基本的な考え方、重点的に取り組む施策の大要について申し上げます。

沼津が誇り高い、元気なまちとなることは、静岡県東部地域全体の発展にも資するものと考えております。

そのためには、近隣市町としっかり連携し、本市がその牽引役を果たせるよう、私の持てる力の全てを発揮し取り組んでまいりますので、議員各位及び市民の皆さまには、今後の市政運営に格段のご理解、ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます、私の所信表明といたします。